

病防第98号
令和2年7月31日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長
病害虫発生予察特殊報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

令和2年度病害虫発生予察特殊報 第2号

令和2年7月31日
岐 阜 県

- 1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
- 2 作物名 飼料用とうもろこし
- 3 発生地域 飛騨地域
- 4 発生経過
侵入警戒を行っていたツマジロクサヨトウについて、高山市(飛騨地域)に設置したフェロモントラップ(設置日:令和2年5月27日(水))において、令和2年7月14日(火)に本種と疑われる成虫が捕獲された。
また、疑義成虫の捕獲を受け、7月16日(木)~21日(火)に県内各地域において栽培されている飼料用とうもろこし、スイートコーン及び飼料用ソルガムを調査した結果、7月16日(木)に飛騨市(飛騨地域)の飼料用とうもろこしほ場で本種と疑われる幼虫を採取した。
7月14日に捕獲された成虫、及び7月16日に採取した幼虫について、農林水産省名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、7月27日(月)にともにツマジロクサヨトウであることが確認された。
本県では、フェロモントラップによる成虫の発生は確認されていたが、幼虫の寄生が確認されたのは今回が初めてとなる。
- 5 本種の幼虫の形態及び特徴
 - (1) 形態
終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状に見える紋を持つ(図1)。また、尾部に黒色斑点(刺毛基板)を持つ(図2)。成虫は、開張約37mm、雄は前翅に淡色紋と白紋、雌は前翅に不明瞭な円紋を持つ。
 - (2) 生態
本種は南北アメリカ大陸の熱帯~亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。熱帯では年4~6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。
 - (3) 寄生植物
これまでのところ、国内ではイネ科作物(飼料用トウモロコシ、スイートコーン、飼料用ソルガム、サトウキビ、もちきび等)に本種幼虫の発生が確認さ

れているが、その他のイネ科、ナス科、ヒルガオ科、マメ科など幅広い作物に寄生することが知られている。

(4) 被害

幼虫が植物の葉、茎、花及び果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

6 防除対策

(1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。

(2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合、速やかに病害虫防除所に連絡する。

(3) 本県で本種の発生が確認された場合、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。

(農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」)

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

(4) 薬剤散布が困難な場合は、早期刈取りによる青刈りサイレー処理を実施するとともに、幼虫の分散を防ぐため、収穫後は残渣のすき込みを実施する。



図 1 飼料用とうもろこしで採取されたツマジロクサヨトウ幼虫（飛騨市）
（頭部に逆 Y 字状に見える淡褐色の紋がある）



図 2 終齢幼虫尾部の黒色斑点（刺毛基板） ※農林水産省ホームページより引用